

社会政策学会 Newsletter

No.2(通号 No.32) 2002 .10.8

- 学会本部 ● 東京大学経済学部 森建資気付 URL <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sssp/>
Tel 03-5841-5510 Fax 03-5841-5521 E-mail tmori@e.u-tokyo.ac.jp
- 事務センター ● 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株) ワールドプランニング
Tel 03-3431-3715 Fax 03-3431-3325 E-mail world@med.email.ne.jp

<目次>

1. 第105回秋季大会プログラム
2. 臨時総会のご案内
3. 学会予算案
4. 第106回春季大会のご案内
5. 旅費規程について
6. 第3回幹事会議事録
7. 秋季大会企画委員の変更
8. 新入会員

社会政策学会第105回大会プログラム

第1日 2002年10月19日(土)

10:30~12:15 書評分科会(第1~4分科会)

第1分科会 社会・経済問題としてのジェンダー

座長：愛知淑徳大学・石田好江 【0603 教室】
竹中恵美子編『労働とジェンダー』明石書店 田中裕美子
伊豫谷登士翁編『経済のグローバリゼーションとジェンダー』明石書店 久保文一
室住真麻子『世代・ジェンダーからみた家計』法律文化社 荒又重雄

第2分科会 現代日本の企業・労働 【0704 教室】

座長：下関市立大学・下山房雄
野村正実『知的熟練批判—小池和男における理論と実証』ミネルヴァ書房 富田義典
上井・野村編『日本企業の理論と現実』ミネルヴァ書房 野原光
鎌田耕一編『契約労働の研究』多賀出版 神尾京子

第3分科会 労働史の諸相 【0602 教室】

座長：法政大学・二村一夫
大森真紀『イギリス女性工場監督職の史的研究』慶應大学出版会 吉田恵子
高橋彦博『戦間期日本の社会研究センター』柏書房 木下順
伊藤晃『日本労働組合評議会の研究』社会評論社 三宅明正

第4分科会 家族における生活の営みと保障【0703 教室】

座長：東京都立短期大学・川島美保
岩本康志編『社会福祉と家族の経済学』東洋経済新報社 西村智
中田・杉本・森田『日米のシングルファーザーたち』ミネルヴァ書房 湯沢直美
前田信彦『仕事と家庭生活の調和』日本労働研究機構 三山雅子

12:15~13:15 昼休み(幹事会、各種委員会)

13:15~15:00 書評分科会(第5~6分科会)

第5分科会 各国の雇用諸関係 【0603 教室】

座長：和歌山大学・乗杉澄夫

篠田武司編『スウェーデンの労働と産業』学文社

今村寛治
田中洋子『ドイツ企業社会の形成と変容』ミネルヴァ書房
関口定一
中窪裕也・池添弘邦『アメリカの非典型雇用』日本労働研究機構 佐藤飛鳥

第6分科会 社会・労働の理論 【0706 教室】

座長：大阪市立大学・玉井金五
池田信『社会政策論の転換』ミネルヴァ書房 高田一夫
山崎清『社会形成体と生活保障』社会評論社 相沢与一
鈴木和男『労働過程論の展開』学文社 京谷栄二

13:15~14:25 自由論題(1~2)

<自由論題第1会場 雇用管理> 【0703 教室】

座長：山本興治(下関市立大学)
(1) 「60歳台前半層の継続雇用制度」 富田安信(大阪府立大学)
(2) 「被差別部落の就業構造多様化と企業による採用管理の制度的ありようの関連」大西祥恵(大阪市立大学大学院)

<自由論題第2会場 労働・社会運動史> 【0704 教室】

座長：佐藤 眞(岩手大学)
(1) 「日本の高度成長期における内職の実態」 高野剛(大阪市立大学大学院)
(2) 「社会党改革論争と労働組合」 岡田一郎(筑波大学大学院)

15:15~17:00 自由論題(3~5)

<自由論題第3会場 社会福祉> 【0603 教室】

座長：上掛利博(京都府立大学)
(1) 「地域におけるホームレス支援施策の構造」 岡本祥浩(中京大学)
(2) 「ワーカーズコレクティブによる高齢者介護労働の質」 小林治子(龍谷大学大学院)
(3) 「高齢者在宅ターミナルケア」 嶺学(法政大学)

<自由論題第4会場 社会保障> 【0703 教室】

座長：菅沼 隆(立教大学)
(1) 「国民皆年金体制の形成過程」 大竹晴佳(一橋大学大学院)
(2) 「中国における医療提供体制の改革」 楊開宇(大阪市立大学大学院)
(3) 「子どもに関する社会保障給付と税控除」 阿部彩(国立社会保障・人口問題研究所)

<自由論題第5会場 社会政策> 【0704 教室】

座長：阿部 誠(大分大学)
(1) 「「脱商品化」概念の理論的検討」 大北秀明(駒沢大学大学院)
(2) 「イギリス・高齢者対人社会サービスの現状と課題」 山田亮一(大阪市立大学大学院)
(3) 「社会政策と社会意識」 武川正吾(東京大学)

17:10～18:10 臨時総会 【4号館3階431教室】
 18:15～20:00 懇親会 【センタービル2階学内食堂】

第2日 2002年10月20日(日)

共通論題 「現代日本の失業」

座長 石田光男(同志社大学)、大森真紀(早稲田大学)

9:30～12:00 午前の部 【4号館3階431教室】

「現代日本の失業と不安定就業」 伍賀一道(金沢大学)

「世代間対立としての失業問題」 玄田有史(東京大学)

「職業能力開発からみた今後の雇用形態」

久本憲夫(京都大学)

12:00～13:00 昼休み (幹事会、各種委員会)

13:00～16:30 午後の部 【4号館3階431教室】

『失業対策』の転換と今日の完全雇用政策

大木一訓(日本福祉大学)

総括討論(14:00)

臨時総会のご案内

すでにご連絡したように、来る105回大会中の10月19日に臨時総会を開きます。現在以下の議案を考えております。旅費規程と予算案については本ニューズレターに提案を掲載しておりますので、ご検討くださるようお願い申し上げます。

臨時総会議案(案)

1. 現況報告
2. 106回大会について(春季大会企画委員長)
3. 107回大会について(秋季大会企画委員長)
4. 編集委員会報告
5. 旅費規程について
6. 2003年度予算案について
7. 日本学術会議について
8. その他

社会政策学会2003年度予算(案)

自 2003年4月1日

至 2004年3月31日

【収入の部】

(単位:円)

項目	2003年度予算額	参考:2002年度予算額	対前年度増減	備考
会費収入	8,786,000	8,779,200	6,800	会員数を1020人と見込む
大会参加費	1,624,500	1,650,000	-25,500	春1,089,500、秋535,000
学会誌還元金等	530,000	100,000	430,000	雑収入を含む
利子収入	1,000	1,000	0	
当期収入計	10,941,500	10,530,200	411,300	
繰入金	3,515,741	1,949,851	1,565,890	
収入合計	14,457,241	12,480,051	1,977,190	

【支出の部】

項目	2003年度予算額	参考:2002年度予算額	対前年度増減	備考
大会開催費	1,900,000	1,800,000	100,000	
春季大会	900,000	800,000	100,000	
秋季大会	900,000	800,000	100,000	
大会企画委員会活動費等	100,000	200,000	-100,000	
交通費	570,000	0	570,000	旅費規程案参照
部会活動費	200,000	300,000	-100,000	
学会誌発行費	4,852,400	4,807,000	45,400	
学会誌代金	4,702,400	4,657,000	45,400	会員数に連動
編集委員会活動費	150,000	150,000	0	
選挙関連費	300,000	0	300,000	
学会賞関係費	250,000	250,000	0	
記念品代等	100,000	100,000	0	
審査員交通費等	150,000	150,000	0	
業績リスト作成費	200,000	200,000	0	
学会ホームページ関連費	150,000	0	150,000	学会誌目次入力
名簿関連費	0	500,000	-500,000	
内外諸学会分担金	120,000	120,000	0	
本部経費	2,261,100	2,165,000	96,100	
幹事会費	30,000	50,000	-20,000	
ニューズレター発送費	367,200	270,000	97,200	会員数に連動
学会事務委託費	963,900	945,000	18,900	会員数に連動
その他事務経費	900,000	900,000	0	NL制作費等
予備費	300,000	300,000	0	
当期支出合計	11,103,500	10,442,000	661,500	
繰越金	3,353,741	2,038,051	1,315,690	
合計	14,457,241	12,480,051	1,977,190	

注)会員数を、名誉会員26人、普通会員864人、院生会員130人、計1,020人と見込む。

社会政策学会・第106回大会のご案内

社会政策学会の第106回大会は、2003年5月17日（土）、18日（日）に一橋大学で開催されます。

共通論題 「新しい社会政策の構想」 (仮題)

趣旨

社会政策は一定の目的を実現しようとする営みであり、何らかの価値や規範を前提として初めて成立するが、これまでの社会政策学会の共通論題では、規範的な理論を正面から取り上げることが少なかった。他方、哲学や倫理学の分野では、抽象的に価値や規範について論じるだけでなく、現実とのつながりを求める動きも出てきている。これらを背景に、第106回大会では、新しい社会政策の構想を共通論題として取り上げる。

1. 「公共哲学と社会政策 (仮題)」

川本隆史 (東北大学)

応用倫理、公共哲学、臨床哲学などの成果を紹介するとともに、これらと現実の社会政策との架橋を試みる。

2. 「ベーシックインカムの構想と実験 (仮題)」

小沢修司 (京都府立大学)

近年、欧州で盛んに議論されているベーシックインカム構想について、フェミニズムやエコロジーなども視野に入れながら取り上げる。これまでのわが国におけるこの分野での議論の遅れを取り戻すための出発点とする。

3. 「労働の未来と社会政策 (仮題)」

田中洋子 (筑波大学)

SPDやDGBなどをはじめとしてドイツで議論されている「労働の未来」論における社会政策構想を取り上げ、わが国における適用可能性について探る。

4. 「ジェンダー・メインストリーミングの社会政策 (仮題)」

大沢真理 (東京大学)

北京会議や男女共同参画社会基本法などの成果を踏まえながら、女性政策などジェンダー視点の社会政策の構想について取り上げる。

106回大会 テーマ別分科会・自由論題の報告募集

(1)106回大会の自由論題を募集します。自由論題報告希望者は、論題、所属(詳細に)、氏名、連絡先(住所、電話、ファックス、E-mail)を明記の上、申し込んでください。その際に必ず、200字程度のアブストラクトをつけてください。また、参考のために、次の専門分野別コード番号をつけてください。なお、論文あるいは他の学会報告として既発表のものは認められませんので、ご注意ください。

1. 労使関係・労働経済、2. 社会保障・社会福祉、3. 労働史・労働運動史、4. ジェンダー・女性、5. 生活・家族、6. その他

(2)テーマ別分科会を希望する専門部会や会員は、分科会のタイトル、座長・コーディネーターの名前、所属、連絡先(住所、電話、ファックス、E-mail)、報告者の名前、所属、論題(仮題でも結構)を明記の上、申し込んでください。その際に必ず、分科会設定の趣旨(200字程度)各報告のアブストラクト(200字程度)をつけてください。

(3)自由論題、テーマ別分科会の申し込みは、学会本部あるいは春季大会企画委員長宛に、E-mail、郵便、ファックスのいずれかの形でお願いたします。

(4)申し込みの締め切りは、2003年1月18日(土)です。郵送の場合は、1月18日の消印有効です。

(5)なお、募集の件についてのお問い合わせは、学会本部あるいは春季大会企画委員長にE-mailでお願いたします。

学会本部 tmori@e.u-tokyo.ac.jp
春季大会企画委員長 takegawa@l.u-tokyo.ac.jp

社会政策学会旅費規程について

臨時総会にお諮りし、ご承認を得たいと思います。よろしくご検討くださるようお願い申し上げます。

社会政策学会旅費規程に関する方針(案)

1. 支給対象者を幹事会、春季大会企画委員会、秋季大会企画委員会の出席者、春季大会、秋季大会の共通論題準備会に出席する報告者で、会合の開かれる場所から半径60キロ以上の大学に勤務しているものとする。
2. 往復の交通費(勤務校と会場の間)の半額を支給する。
3. 当面、幹事会と共通論題準備会の出席者は一人2回まで、大会企画委員会の出席者は一人1回を上限とする。
4. 春季、秋季の大会時には支給しない。
5. 非会員の報告者については2回まで旅費の全額を支給する。
6. 所属機関や科学研究費などの旅費を利用する場合には支給しない。

7. 飛行機の利用者については幹事会で承認する。

趣旨

これまでも学会関係の会合への学会からの旅費支給の要望は大きかったが学会財政から見て難しかった。近年、大会参加費の徴収などによって学会財政が若干好転しているので、旅費の援助を行いたい。全額支給という議論もあると思われるが、学会の財政を考えると上限を一人2回にして交通費の半額補助がせいぜいではないかと考えられる。2回に分けて半額補助するのは、1回に限り全額補助するよりも、出席を促進できると考えられるからである。

幹事会については、春、秋の大会以外に、1月、4月、7月、9月と4回にわたって開かれており、関東在住外の幹事の負担が大きかった。それをいくらかでも軽減することが期待される。また共通論題の入念な準備を奨励するために、2回までの支給を認める。

大会企画委員会については、会合の場所から離れている委員の参加促進が主目的。特に秋季大会企画委員会が秋季大会と春季大会の間に会合を持てるようにする。秋季はこ

れまで委員の地理的な分散から十分に企画を議論する時間がなかったと思われる。

学会財政に過大な負担をかけないために実際にどのく

らいかかるか2年ほどかけて見なければならぬと思われる。当初は企画委員会について一人1回までにしていただくといった仕方でやや抑制的な形で試行してみたい。

第3回幹事会議事録

日時：2002年7月13日13:00～16:00

場所：東京大学大学院経済学研究科

出席：五十嵐、上掛、木本、伍賀、佐口、関口、中川、橋元、深沢、松丸、森建資、森ます美、鷲谷、伊藤、遠藤
欠席：岩田、埋橋、大沢、木村、熊沢、猿田、下山、武川、富田、野村、久本

1. 前回議事録確認

前回議事録を確認した

2. 新入会員承認

10名の新入会員を承認した

3. 報告、審議事項

(1)104回大会総括

開催校の堀越会員より報告書にもとづいて説明があった。(開催校報告はニューズレター、No.1に掲載)。

(2)秋季大会企画委員会報告

秋季大会企画委員長より秋季大会の共通論題については7月と9月に2回検討会を持つ予定であること、自由論題は13件の申し込みがあったことが報告された。また副編集委員長より書評分科会の準備が出来たとの報告があった。また秋季大会開催校より文書による準備状況の報告がなされた。

(3)秋季大会書評分科会の持ち方について

副編集委員長より107回大会以降の秋季大会での書評分科会の責任体制を変えて、地域部会が持ち回りで企画を立てるようにしたいとの提案がなされた。秋季企画委員会、編集委員会、地域部会の3者間でどのように責任を分担するのか、地域部会によっては企画を行う余力がないといった意見が出された。この問題については、さらに検討することにした。

(4)編集委員会報告

副編集委員長より8号の編集に関連して本のタイトルを学会の共通論題と違ったものにしたとの提案があり、今後は編集委員会の提起を受けて代表幹事が幹事に諮っ

た上で決めることにした。また広告の学会誌掲載について議論を交わし、8号については載せない、9号以降については検討すると決めた。

学会誌改革ワーキング・グループについて意見が出された。また学会誌の刊行について科学研究費の補助金を申請する件については、今後協議していくことにした。

(5)春季大会企画委員会報告

春季大会企画副委員長より106回大会の共通論題を「新しい社会政策の構想(仮題)」としたいとの提案があり了承した。また報告の柱立てが紹介され、それをめぐって意見が出された。

また従来分科会の座長報告は開催校に出されていたが、今後はこれを企画委員会に出すことにした。

(6)106回大会の日程について

2003年5月17日、5月18日の開催を了承した。

(7)ホームページ担当報告

ホームページ担当幹事より、今の体制をしばらく継続したい旨の報告があり、了承した。また学会誌の目次を入力する件については、15万ほどの見積もりが出され、予算化の方向で検討することにした。

(8)学術会議について

遠藤会員(オブザーバー)より学術会議について配布資料に基づいて説明があった。候補者については前回と同じでよいとの意見が出された。推薦人3名については次回幹事会で決めることにした。

(9)旅費規程について

代表幹事より旅費規程案が出され、幹事の幹事会出席と共通論題報告者の準備会出席については旅費の半額補助を2回まで、大会企画委員会出席については半額1回まで、非会員の報告者は全額2回まで支給する方向で旅費規程案を修正し、次回幹事会に提出することにした。

秋季大会企画委員の変更

前回のニューズレターで秋季大会企画委員会のメンバーを紹介しましたが、委員に変更があります。町井輝久に代わって片山一義、橋元秀一に代わって菅沼隆、長井偉訓

に代わって山本興治、脇坂昭吉に代わって阿部誠です。佐藤眞、竹田昌次はそのままです。

承認された新入会員

氏名	所属	専攻	推薦者
〈9月28日の幹事会で承認(7名)〉			
鈴木和雄	弘前大学人文学部	労使関係・労働経済	富田義典 平地一郎
佐藤隆三	東北文化学園大学医療福祉学部	社会保障・社会福祉	藤田至孝 岡信一
堀江孝司	名古屋市立大学人文社会学部	労働政策、福祉国家論	藤田栄史 赤堀正成
吉田明弘	兵庫大学短期大学保育科	社会保障・社会福祉	里見賢治 西島文香
島袋隆志	明治大学大学院経営学研究科・院生	労使関係・労働経済	黒田兼一 平沼高
金成垣	東京大学大学院人文社会学部	社会保障・社会福祉	森建資 武川正吾
武田留美子	広島大学大学院社会科学部	社会保障・社会福祉	渡辺満 来島浩